

ジャン-リュック・ラショーム

フランス原子力安全庁（ASN）コミッショナー



1959年にリモージュで生まれたジャン-リュック・ラショームは、フランス海軍兵学校をエンジニアとして卒業し、また EAMEA（原子力軍事応用学校）を原子力エンジニアとして卒業した。

1980年に海軍兵学校に入学し、海軍士官としてフランス海軍でのキャリアをスタートした。1983年から1991年にかけて、潜水艦「アゴスタ」「ディアース」「ランフレクシブル」「ルテリブル」で数回の就航任務を実施した。その後、1992年から1998年まで、パリの海軍参謀本部核セキュリティ室の専門家を務めた。

1998年に民政局を統合し、ASN（フランス原子力安全庁＝フランスの原子力規制機関）に入り、危機管理、検査組織、環境を担当する部門の配属となった。2004年には副局長に任命され、主にアレバ、CEA、ANDRA が運営する原子力施設や、小規模な医療・産業用原子力活動の監督を担当した。国際的な活動にも深く関わっており、国際原子力機関（IAEA）の安全基準委員会（CSS）のフランス代表を長年にわたって務めた。また、2014年から2017年まで、原子力発電プログラムを開始する国々の原子力規制当局を支援することを目的とした規制協力フォーラムの議長を務めた。

2017年には、フランス放射線防護・原子力安全研究所（IRSN）に危機管理担当の局長代理として入り、局長の直属となった。より具体的には、IRSN内の危機管理準備活動の調整を担当した。

国民議会議長からの提案により、2018年12月21日付フランス共和国大統領令により、6年の任期でASN委員に任命された。